

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503692		
法人名	(有)マネジメントコンサルタント		
事業所名	エンゼルホーム北野		
所在地	北海道札幌市清田区北野4条4丁目25番10号		
自己評価作成日	平成23年12月30日	評価結果市町村受理日	平成24年2月3日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
<http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0170503692&SCD=320>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々のレクリエーションを多く取り入れるようにしている。今後は地域との連携ということでも、年間行事にも地域に声をかけて参加して頂けるようにしていきたい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年1月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市郊外の閑静な住宅街にあり、近隣には公園、学校があり自然に恵まれ落ち着いた環境にある。教会付属幼稚園の建物をグループホームとして改築し、利用している。前庭は広く、菜園作りをして秋には収穫を楽しむことができる。居住スペースは、利用者の安全と快適さ、介護者の動線を考慮した造りで、一人ひとりが居心地良く生活できるように配慮されている。介護体制については、法人代表者、管理者が職員と共にケアサービスの質の向上に取り組み、「自由と安らぎのある穏やかな生活」の継続を支援している。日々のレクリエーションや行楽などの多彩な年間行事は、利用者の生活自立と活性化に効果をあげている。家族には、定期的に「便り」や介護記録を送付して、日々の暮らしぶりを報告し、安心と信頼に繋げている。運営推進会議は、定例に開催し、地域包括支援センター職員、民生委員、町内会役員が出席し、運営状況、行事予定、事故報告を行い事業所運営の理解に繋げ、災害対策については共に考え、避難場所に地域資源を活用できるよう計らう等、会議での討議内容はケアサービスに活かされている。地域との関係については、日々挨拶を交わす他、清掃作業や町内会行事の夏祭り参加、地域ボランティアの定期的訪問受け入れ等で理解を深めている。地域に根ざしてこれからも発展が期待できる事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が作った理念を基に、その都度話し合いの場を持ち理念に沿えるよう努力している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた、独自の理念を作成している。理念は事業所内の要所に掲示し、職員の名札の裏にも入れて確認し、サービスの実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議への参加をお願いしている。また、町内への清掃活動や町内会のお祭り等の行事にも参加している。また、日々の散歩の際にも挨拶を心がけている。	町内会に加入し、清掃作業や夏祭り行事に参加している。日頃の散歩では、近隣の人々と挨拶を交わし、回覧板を利用し事業所行事の案内を行い、地域ボランティアを受け入れている。	事業所は地域の一員としての認識を持ち、地域との関係を大切に考え、人々との交流に努めている。今後も更に事業所への理解が深まるように、行事や運営推進会議への参加を引き続き呼びかけよう期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中や町内清掃時等に積極的に挨拶や話しかけをしている。運営推進会議の際にも町内の状態をお聞きし、参考意見を話している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度運営推進会議を開催し、日常報告や評価への取り組みについても話し合っている。	地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、代表、管理者参加のもと定例に開催している。事業所運営、行事、事故、災害対策について討議し、サービス向上に努めている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や地域包括担当者とは日頃から相談や指導を受けながら連絡をとっている。また、札幌市主催の連絡会等にも参加している。	行政関係担当者とは日頃から情報交換を行い、連携して協力関係を築いている。市主催の連絡会や研修会に出席し、サービスの質の向上を図っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表を含む職員全員が身体拘束禁止という事を理解し、事業所内にも張り紙などをして日頃から努めている。ただ、夜間の外玄関の施錠は防犯上行っている。また日々の業務の中でもお互いが注意している。	身体拘束についてのマニュアルを整備し、研修を行い、事業所内に文章掲示して、全員で認識の共有を図っている。日中は施錠せず、安全に配慮しながら、自由な雰囲気の中で生活するように配慮している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員は高齢者虐待について機会ごとに学んでおり、施設内に張り紙をし日頃から自分たちの介護方法などの間違い等話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修会や講習等で権利擁護・青年後見人制度について学び、持ち帰ったものは職員と共有している。また、必要な方の見極め支援を心掛けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、解約時、改定時には直接、利用者・ご家族に説明し不安点・疑問点があった場合には十分な説明をおこない納得していただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱・苦情申立先パネルを設置したり、いつでも気軽に管理者や職員へ話せる関係性の確立に努めている。家族からの意見・要望はすぐに職員・管理者と共有している。	意見箱を設置し、公的苦情申し立て機関を明示している。家族には「エンゼル通信」や「介護記録」の送付で生活状況を報告し、電話や面談で意見、要望を聴取し運営に反映させている。	家族に運営推進会議や事業所行事への参加を呼びかけているが、希望するような出席数がみられない。今後も継続して働きかける他、運営推進会議の討議内容を家族へ報告することを検討しているので期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が日常会話の中でも運営に関する意見交換が出来る雰囲気を保つ事にも努力している。また月に1度カンファレンスがあり、その際にも意見を言っている。	代表者、管理者は日常的に職員の要望を聞く機会があり、定期的なカンファレンスでも意見交換することができ、職員の意見は運営に反映させるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の仕事の実績等を把握し、キャリアパス等を利用し各自が向上心を持って働けるよう整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、始めたばかりではあるが社内での研修会も行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加した際は外部との交流を積極的に持つことを推奨し、それが職員にとっても自身を見つめなおす重要な機会ととらえ、積極的な参加を奨励している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前情報・面談で情報を集め共有し、本人が求めている事・不安な事をお話や観察を通して理解し実践している。また、よい関係構築に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話合っている。心配事や要望も真っ直ぐに向き合ってお話する事で信頼関係の構築に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に合った個別アセスメントで個人のニーズに合ったサービス提供のプラン作りを行っている。訪問診療・訪問理美容・訪問歯科等の外部サービスも提供できる様にしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と本人が「共に生きている」事が実感できるような安心感を持てるように対応している。支え合う関係を作り笑顔を共有出来るよう努力している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の思いを尊重する事でケアプラン上で方向性を提案している。また日々の暮らしの中で気付いた事は情報の共有を行い、家族にしか出来ない事の助言や場面を提供出来る様心がけている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の昔話や思い出話を良く聞き、それを家族と共有している	盆には家族と共に墓参りをしたり、年末には帰省できるよう支援している。住職の月参りの居室訪問や、家族や友人の来訪時には、ゆっくり寛げるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った同士が傍に居る事で互いに安心出来る位置関係に留意している。散歩・外出・同じ作業等を一緒にする機会を多くし、協力・関わり合いがうまく取れる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族の方の不安が少しでも軽減できるよう、立ち寄りいただき、お話を聞いたり相談にのったり、元気づけたりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活状況を理解し、本人や家族の思いに沿ったプランになっているか、見直しをしている。日常的にも、本人の気持ちを把握し、カンファレンスでも話し合っている。	日頃の会話や表情から本人の希望を汲み取り、家族や記録からも情報を得、職員と情報交換しながら、本人の意向に添えるように検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に協力して頂きながら、生活環境やこれまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。またSWや病院等とも情報共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なケアカンファレンスの開催、日々の申し送りなどで職員間の情報共有を図っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一定期間のモニタリングを経て課題とケアのあり方を明確にし、ケアカンファレンスを行っている。ご家族・本人と話し合い介護計画を作成している。	本人、家族の意向を尊重し、医師の意見も取り入れ、担当者と職員が会議で検討している。定期的なモニタリングの他、現状に即して、随時介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフだけではなく、ご家族が見ても日々の様子・ケア内容や変化等、すぐにわかるよう細かく記録に残し、日々の介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察や消防、民生委員、地区町内会長、区担当職員と意見を交換する機会を設けている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1回かかりつけ医の訪問(往診)と随時の病院送迎・付添いなどのサービスも実施している。日頃から状態の報告等も行っている。	提携医による月2回の往診診療の他、希望のかかりつけ医への連絡、通院支援を実施しており、常に希望する医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的にかかりつけ医看護師や訪問看護師に報告・連絡・相談できる体制を整えている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先ソーシャルワーカーと日頃から面識を持ち、退院時期等についても早期退院を目指した情報交換や相談に努めている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の事業所方針を明確にし職員・本人・家族と共有している。	重度化した際の方針を早期に本人、家族と話し合い、文書で確認している。変化が生じた場合は、家族、医師、職員で情報を共有し、できるだけの支援を行なっている。	ターミナルケアについて職員は経験しており、研修している。重度化した際の事業所方針は、家族と共に共有しているが、状況に応じ更に確認し、文書を整備することを期待したい。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが応急手当での訓練等行っている。また、事故防止マニュアル等も完備し、特変時にそなえている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災避難訓練を行っている。また、運営推進会議に地区消防や町内会役員も参加していただき、災害対策につとめている。	年2回消防署協力の下、避難訓練を実施している。避難時の見守り、避難場所について地域の協力を得ている。スプリンクラー、自動通報装置が設置されている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを傷つけない言葉かけや対応に留意し、人間としての尊厳を第一に心掛けている。記録等の個人情報とは所定の場所に保管している。	職員は利用者の人格を尊重し、言葉かけや対応に配慮している。個人情報記載の書類保管には細心の注意を払っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望等を伝えられる環境作りと話し合える場を設けている。本人で決められる事は決めてもらえる様支援している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ職員本位にならない様に注意し、個々の意思を尊重している。その日の希望に柔軟に対応できる様心掛けている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の希望に添えるよう心掛けている。日常的に整髪や身だしなみのお手伝いはさりげなく行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に個人の好み等を会話の中から拾って反映させている。また、負担にならない様に一緒に家事にも参加していただく事で本人の自信に繋げている。	献立は利用者の嗜好を取り入れて作成している。職員と共に食事作りに参加し、同じ食卓を囲む食事は1日の楽しみとなっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に食事量・水分量を記入し職員全員で把握している。また、状態によってメニューの変更や好みの物を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は自身で出来ない方には声掛け・介助によって口腔ケアに努めている。また、訪問歯科等も利用し口腔ケアの指導も受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、トイレの声掛けを行っている。排便チェック表に基づき、かかりつけ病院とこまめに連絡、指導を受けている。	介護記録や排泄チェック表、動作、表情から個々の排泄パターンを把握し、それとなく誘導するなど、トイレでの自立排泄に向けて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には特に注意し、日頃より運動の声掛けや便通の良くなる飲み物の提供、腹部マッサージ等取り入れている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理な入浴の声掛けは行わず個人の希望に沿って入浴して頂いている。背中をこすったり入浴剤を変えたりと、その時々によって楽しんで頂いている。	週2回以上を基本としながら、個々の希望やタイミングに合わせていつでも入浴できるよう努めている。安全に配慮し、ゆっくり入浴が楽しめるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活のリズムを把握し環境を整え安眠出来る様に心掛けている。眠れない場合はお話したり暖かい飲み物等提供し安心して眠れる様配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で個々に服用している薬について把握・理解に努めている。また、誤薬がない様に職員同士の2重チェックや声を出しての確認方法をとっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の好みや能力に合わせて声掛けを行っている。義務にならない程度を見極めて食器拭き・拭き掃除等行い、その方の自信にも繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	散歩・日光浴等、体調とその日に合わせて声掛け支援を行っている。また、年間行事計画を立ててバスレク等もやっている。	個々の希望や体調に配慮しながら、周辺への散歩、菜園作り、雪遊びで日常的に戸外に出て五感刺激を行なっている。事業所行事として花見、紅葉狩り、外食、開拓記念館見学等があり、生活の活性化に繋げている。	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	人によってはホーム側で金銭管理を行っているが、それぞれの希望に応じてお金を所持したり使える様支援している。		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	いつでも電話や手紙のやり取りが出来る様に支援している。		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共有部分の音や光の調節を行い入居者が不快な思いをしない様に努め居心地の良い空間作りに工夫をしている。また、季節に合った演出もやっている。	リビングを中心に洗面所、トイレ、浴室と回廊式设计になっておりバリアフリーである。窓からは四季折々の景色が眺められ、室内に飾ってある利用者手作りの作品や絵画は、生活に潤いをもたらせている。採光、換気、温湿度も最適である。	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	リビングや玄関前ベンチ等で時々に合わせて1人で過ごされたり、気の合う者同士でくつろげる様に空間の間を作っている。		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	入居の際に今まで使われていた物の利用をお願いしている。清潔に心掛け居心地の良い様に工夫している。	馴染みの家具や仏壇を持ち込み、利用者の生活スタイルを活かしながら、居心地良い居室となるよう工夫している。収納箇所もあり、程よく整頓されている。	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	各居室に表札を設けたり、トイレ等に目印を設ける事で混乱を防ぎ自立して暮らせるように工夫している。		